いつもは
家で食事のしたくをしない
おとうさん。
でもきょうはがんばってやっている。
きようのおとうさん
なんだかおかしいな。

いつもは
そんなに食べない
おとうさん。
でもきようはたくさん食べている。
きようのおとうさん
なんだかおかしいな。

（三年　加藤なみ）

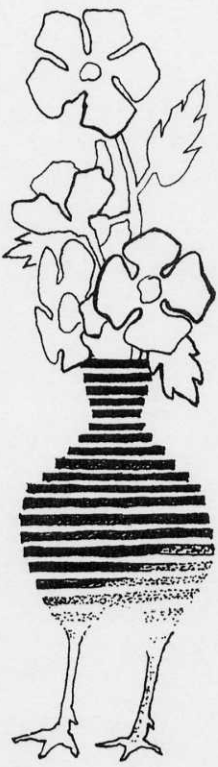
昭和54年12月1日
編集／発行
岡崎市教育委員会

（山の幸を囲む親子教室―常磐南小）

—教育随想—

昔を偲んで

杉浦　豊



今の私の家は、昭和九年から十年まで、二年がかりで建て替えられた建物で、私が子供のころは柱、椽、廊下、戸棚付階段まで、まるで漆をぬったように黒光りしておりました。

これは常時、七、八名のお弟子さんが寝食を共にし、朝な夕な雑布がけをしてみがき上げたおかげで黒光りしていたものと思われ、当時の徒弟制度が偲ばれます。

私の家の初代は、番匠五平治藤原政重と申し、京都の工匠柴田新八郎の門人で三河国額田郡西大平村（現大西町）に居住し、天保十四年、勅許により神祇道拝揖式被授與され、二代目番匠和四郎藤原政常は文久四年に継目相続し、三代目杉浦広五郎、四代目杉浦一平と、当地において百有余年代々神社仏閣を造る堂宮大工です。

安政二年正月、火災により焼失した大樹寺の本堂再建の指示により、江戸幕府より譜請奉行が工匠棟梁同道して来岡され、当地和四郎藤原政常を副棟梁としての指令を受け、建立に邁進しました。

この時、建舞の前に柱を一つ一つ検調したところ、柱の一本が何者かによって一寸程短く切られていたのに気付いたので、早速取り替え無事棟上げを終え事無きを得たそうです。

その夜のうちに棟梁はいずれかへと遂電し、その後和四郎が棟梁として工事の完成をみたという話も聞いています。（この図面の一部も当家に保存されています。）

また、大正二、三年に竜城神社、大正四年に西別院、六名の三島神社等、立派な建物があり、これらを手がけましたが戦災にて焼失したのもあり、まことに残念です。しかし、図面は現在も残っております。

このように、古い建物の棟札等により祖先の名を知らされ、その仕事を思うと感慨深いものがあります。

三代目杉浦広五郎を師匠として、現在欠町に住んでおられる鈴木松次郎氏（八十四歳）のお話によりますと、昔は十四、五歳で入門し、早朝より家中のふき掃除朝食をすませて、まだ暗いうちに荷車を引いて現場へ出かけたといいます。遠い現場へは泊り込みで出かけ、食事の支度、片付け、夜は兄弟子たちのものの洗濯までしたといいます。

私たちも、こんなふうにして修業したり、教えたりしてきたものですが、昔は仕事はなかなか教えてもらえませんでした。だから見よう見まねで覚えてきました。教えてくれるのを待っていたらいつまでたっても進歩はありません。

教えてもらう場合、大切なことは、師の教えをそのまま真似するということです。すなおに、正確に真似するということがすべてです。こういうことができてこそ、はじめて自分のものが見つけ出せることになります。

こんなことは昔のことですが、祖先のことを偲ぶにつけ、今日ではこういう師弟のつながりが薄れてきて残念に思います。

（工匠）

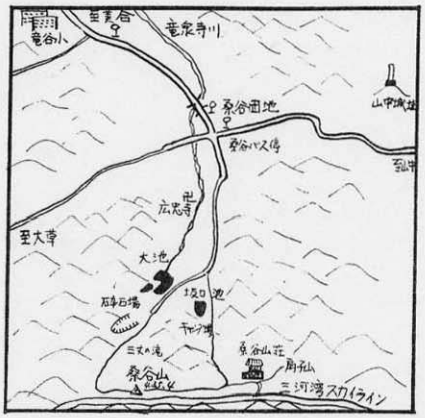
白い珊瑚礁・真青な空

葉山栄子

ミンダナオ島先端にあるサンボアンガからサンタクルス島まで小船で一人四五ペソ（一三五〇円）と聞き、窓ガラスの割れが少々気になる安ホテルの絨毯の上にあぐらをかいて手持ちの外貨をにらみつけ、「高いなー」とぼやく夫と私。

それでも翌朝九〇ペソを握りしめ、出かけたところ同類らしき独人夫婦と合流でき、一隻六〇ペソで交渉が成立し、思わずニヤリこれで二食分儲かった。頭の中の電卓が素早く働く。二〇分程で島に着いたが、なにやら日本語が聞こえる。ぶらりと行ってみると旅行団の人達の豪華な昼食事、ご一諸に！というお誘いを素直にうけた四人はこの時とばかり手摑みで次々と口へ放りなげ空腹を満した。

さて、木陰で着換えをして遊泳としゃれこもうと……出ずに出られずとはこの事か独人奥様は海に向って堂々と着換えし上半身は何も身につけないおつもり、……「今日は朝からついてたな。」と夫は至極満足な様子。



—ふるさとの山河—

桑谷山（くわがいやま）

桑谷山が色とりどりに燃え、ふもとの里に霧がたちこめると、冬が足早にやって来る。桑谷山が青いキャンバスに、なだらかな稜線を描く季節である。

その昔、家康が、岡崎城よりこの山の雲ゆきや霧の様子を見て、晴雨を判断したので、村人は、この山一帯を「雨山」と呼ぶ様になったという。今も、雨は桑谷山から降って来る。山腹に雲がわき、やがて、雨はふもとに広がる。

桑谷山へのハイキングコースの西側に広忠寺がある。家康の父、広忠ゆかりの寺である。天文十年（一五四一）春、広忠に長男勘六（後の松平忠政）が生まれた。母は大給松平氏の娘お久であった。当時の岡崎は今川、織田両氏の勢力がぶつかり合い。松平氏は存亡の危機にさらされた。この年、広忠は刈谷の水野氏の娘於大をめとり、正室とした。政略結婚は、戦国の世のならいであった。広忠はお久と勘六を桑谷山のふもとに住まわせた。

天文十八年（一五四九）、広忠の急死により、お久は妙琳尼となって、子とともに余生を静かに送ることとなった。

永禄三年（一五六〇）の桶狭間の戦いの後、家康は三河の一円支配を強化した。翌年、家康は西尾城を攻める際、ここに隠棲していた忠政と会い、従軍させた。この後、家康は、桑谷村の妙琳尼の所に立ち寄り、父の位牌に拝礼し、本堂を建立、寺号を広忠寺とした。今、樹木におおわれた境内の一隅に広忠、お久、忠政の墓がならんでいる。墓の前を山の気を溶かしたような竜泉寺川が流れている。

家康とゆかりのあるものとして、桑谷山附柴（つけしば）の姓がある。家康が西部上之郷（蒲郡市）の城主鵜殿氏と戦った際、ひと時激しく逆襲された。近くに敵がせまった。山の中で柴刈りをしていた村人が家康を柴の中に隠した。危く難を逃れた家康は村人に附柴の姓を与えたという。

桑谷山へは広忠寺あたりから三十分程で登れる。コースは二つある。ひとつは、坂口池の近くを登るもので、道はよく整備され、途中に桑谷キャンプ場が開設されている。なだらかな稜線を西へ五百メートル程行くと山頂である。他のひとつのコースは、大池の近くを登るもので、道は荒れている。硅石の砕石場を過ぎ、本道より左に小道を分け入ると三丈の滝がある。高さ十数メートルの岩肌を音もなく水はくだる。

桑谷山の山頂は標高、四三五、四メートル。暗れた日には伊勢や志摩の海や山々が見える。

しかし銀色に光る熱帯魚と共に泳ぎ回り、白い珊瑚礁と真青な空が果しなく続く美しい島であったことは記しておきましょう。

（奥殿小）

群

飯尾征彦

県訪中団の一員として、約二週間、華北・東北（旧満州）の旅へ。訪問先で驚かされたことは、自転車と人の群である。月給二か月分はするという。黒塗り、ライトなしの自転車や人の群が、早朝から深夜まで、センターラインのない広い道路一面に、とめどもなく流れている。踏切では、汽車の方が、その流れの切れるのを待っているありさまである。中国の人々は、雨でも、合羽をまとったり、番傘をさしたりして、黙々とペダルを踏んでいく。その合間をぬうようにして、希少なる自動車が我が者顔に走る。けたたましいクラクションで蹴散らし、夜間もスモールランプだけで突っ走る。我々のバスは、『国旅』という特別マークが貼ってあり、赤信号でもクラクションを鳴らせば、波が止まり、猛スピードで通過する。氾濫する人や自転車、傍若無人に疾走する車となれば、交通事故は当然といえる。ちなみにこの旅行中四回も交通事故現場を見ている。次回、中国へ行かれる方は、くれぐれもご注意されたい。

（矢作西小）

▲小公園で遊ぶ子（カナダ）

タバコの葉を運ぶ子（ギリシャ）▶

世界の子ども達

〈イギリスの家庭にて〉

十二才を頭に、二才まで五人の子供。年上の者が、下の子のめんどうを実によく見る。

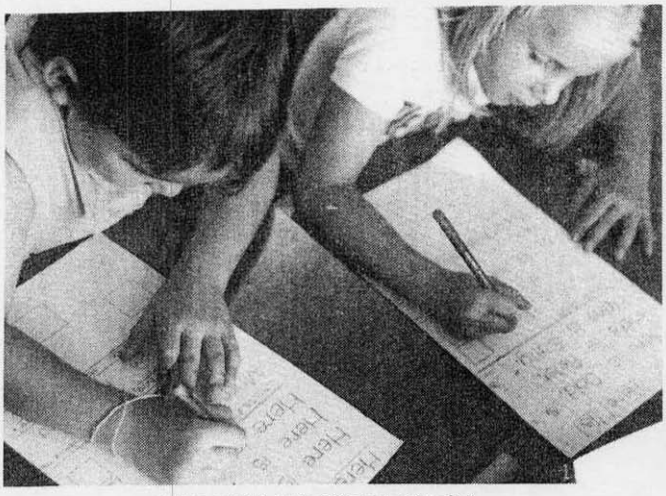
ある夜、夫婦そろって外出した。二才の子を寝かせて出たが、間もなく起きてしまった。泣く子をなんとかしようと、二人の女の子は階下からミルクを持ってきてなだめたが泣きやまない。長男がだいて下に連れていき、好きなレコードを聞かせたりした。しばらくするとなき声はやみ、ベッドに連れていこうとしたが、もう少しのところで起きてしまった。また最初からやり直しだ。もう十時半を過ぎている。三男をソファーに寝かせ、自

▼みやげ物店の少女（ギリシャ）

魚つり（イギリス）▶

▼二人のりのブランコ（イギリス）

ヨーロッパ
アメリカ
オセアニア



▲どこの国も同じ手法のなぞり書き
（ニュージーランド）

▲砂場で遊ぶ子（カナダ）

分は寝ぶくろにくるまって床の上でねむってしまった長男。最後までめんどうをみたこの十二才の少年の姿は立派だ。

〈アメリカの家庭にて〉

ドナルド君は中学三年生。玄関で私のオーバーを取ってくれ、彼の家を案内してくれた。二人のお嬢さんも仲間に加わって、応接間で歓談となった。

ドナルド君は、やおら立ち上がり、父親に何かささやく。

「遠来の客をもてなすために、ピアノを兄妹でひいてあげたい。そのために靴をぬいでもよろしいか。」

と、許可を求めたとのこと。室内で靴をぬぐことを父親の許可のもとに行ったことには驚かされた。アメリカでの家庭のしつけの一端をかい間みた思いであった。

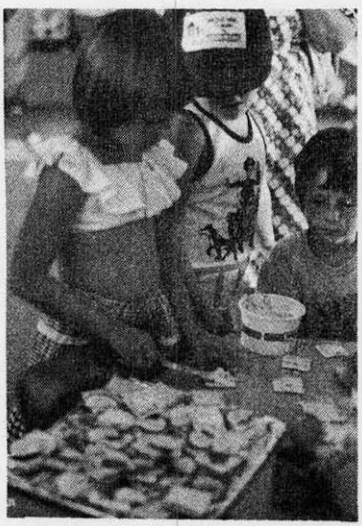
〈オーストラリアの子供達〉

子供達は、幼い時からすでに親から離れた生活が主で、夜になると子供達だけで、自分たちの部屋で朝まで過すことになる。

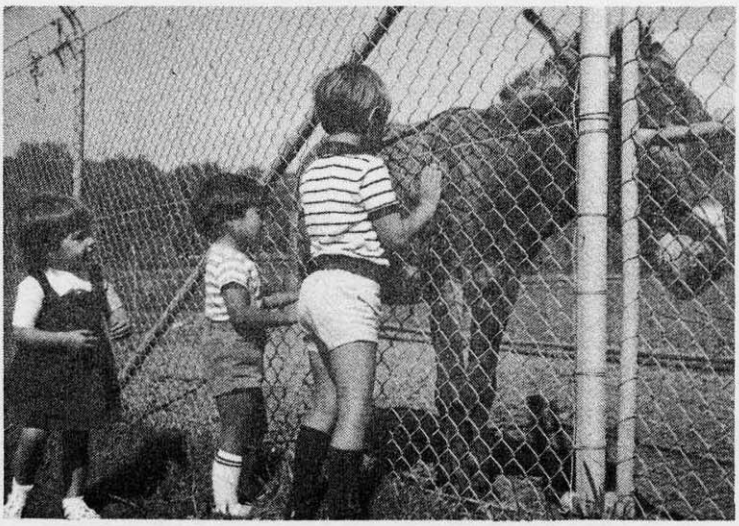
テレビの子供向け番組も夕方六時までで、それ以後は大人向けのもの。テレビの画面にも、「子供にはふさわしくない」「大人だけ」と文字が出る。

幼い頃から自主的な生活習慣を身につけさせているともとれるが、一面親の放任主義とも見受けられる。

▼クリスマスのお菓子づくり
（オーストラリア）



▼子どもたちに人気のある動物園（オーストラリア）



教育日々

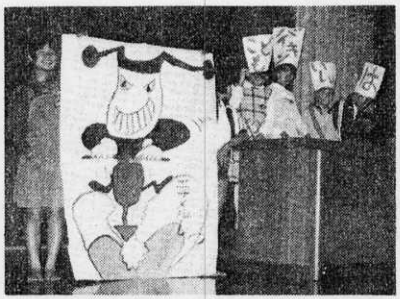
こどもとむしば

男川小　長坂寿子

新卒で男川へ赴任して三年目。現代っ子の標本がいっぱい。治してない虫歯のある子が、当初九一％もいた。市平均を一〇％も上回る数字だった。さらに、その年度の三月、永久歯の年間治療率も、やっと四四％に達する有様。このままではと思い、二年目から、暗中模索のうち、まず、児童と保護者の虫歯に対する意識の高揚をポイントに活動を進めて来た。

児童は虫歯をどう考えているんだろう。六月には毎年、虫歯予防の集会を開いた。映画、自作の大型紙芝居、空き缶で作った歯の大型模型を作っての歯磨き練習、虫歯の現状発表など毎年新しい物をと、保健委員の子らと頭を悩ませている。また、集会の後、全学級で歯の汚れの染め出しをして、虫歯予防への意識の高まりを狙った。そのおかげで、この集会の準備をする保健委員のやる気は、一年を通じて最高である。

歯そのものの質の違いはもちろんのこと、虫歯に対する価値観の違いも甚だしい。虫歯のある子一人一人の名前を学級ごとにグラフに書き、廊下と保健室に張り出し、治療したらシールを張ることにした。自分には虫歯があるという強い意識を持たせることと、他人との競争を狙ってのこころみであったが、ある程度までは治療率が伸びるが停滞気味になってしまう。



子供の虫歯治療に親の考えが影響するのは、あまりにも知られている。保健だよりや保護者会の資料で治療を呼びかけ、年に数回、親子そろっての歯みがき点検などで、親への啓蒙などもしてみた。

こんなようなことは、どの学校でも行われているだろうが、男川では昨年やっと、年間永久歯治療率が八〇％近くになった。また、今年の検診で、永久歯が虫歯になっている者が市平均を一〇％下回り、さらに、虫歯が全部治療してある者が、当初の四八人から一三四人に増えた。

教育の場では、教師が、何をどう、子供に働きかけるかが、とても大切なんだなと、つくづく感じているこのごろである。

生徒に学ぶ

矢作中　牧野重彦

「君達は好きで水泳部に入ったんだろう。それが何だ、たかが十七度Cの水温で、三十分も泳がないうちにダウンするとは」。

「何、頭が痛い。君はスポーツマンだろう。スポーツマンにとって一番大切なことは、健康管理だ。それが風邪をひくとは何事だ」

毎年、四月の初め、矢作中学校水泳部はプールに入り、水のトレーニングを再開する。水温十七度Cといえば、身を切るような冷たさである。それでも水泳が好きな部員達は、必死になって泳ぐ。余りにも冷たい水のため、部員達は続々とダウン。なかには病気になったりする者もいる。こんな時、私の怒声がとぶ。

練習量、四月初め一日二千米、終わり四千米、五月は五千米から七千米、最盛期の六月には八千米泳ぐ。走るのでさえ、苦しい距離を泳ぐのである。当然、少しでも油断すれば病気になる。そのため、部員は自分の体に異常な程気をつかう。睡眠時間、食事、飲み物、それに衣服等。

ある父兄が言う。「うちの子は、真夏でも冷たいものはいっさいとりません。クーラーはもちろん扇風機もかけません。食事も口に入れて、二十回かみ砕くまではのどを通しません。」

七月、各種大会が始まる。練習量の成果が、この時すべてでるのである。部員達のすべては、各試合でベストタイムを出す。しかし、一、二年生の中で、ほんの数人、ベストタイムがでない者がいる。

「君達はどういう生活や練習をしているんだ。みんなは大幅に記録を更新している。何より日頃の努力が足りないんだ。スポーツは、レクリエーションとは違う。遊びじゃない、勝負だ。」

生徒達は、自己新を出すために必死である。暑い夏には、余分な動きは体力を消耗する。部員達は、ウォーミングアップ以外、一切、体を動かさない。迫りくる試合の恐怖に、顔を真っ青にさせながらも、じっとがまんしている。すべてエネルギーを、試合の一点に集中させるためだ。緊張の余り、あっちへフラフラ、こっちへフラフラする。こんな光景は、矢中水泳部に限って皆無である。

『練習に耐え、生活に耐え、試合に耐える』をモットーにした本校水泳部。生徒達は、つまずき、転びながらも懸命に起き上がろうとする。こんな姿の毎日に、私は涙するのである。

おしらせ

〔寄贈刊行物・資料等〕

◇おもいやりのある六ッ美の子　六ッ美中部小学校

◇サイゴンから来た妻と娘（職員読書感想文集）　南中学校

◇汗するわれら　河合中学校

◇藤華（第二号）　岡崎文化協会

晴れの三氏二団体に授賞

第七回　教育文化賞

去る十一月二十四日（土）第七回教育文化賞授賞式が竜美丘小学校で行なわれ、次の三氏二団体に晴れの表彰状と副賞が、内田市長及び竜城RC（宮野米一氏）から贈呈された。

〔個人〕

▽山浦昭雄氏48歳（南中教諭）＝身をもって示した教育実践活動―特に英語指導を通して▽大竹一三氏70歳（岡崎市稲熊町二の一六）＝郷土の生んだ俳人鶴田卓池の顕彰活動▽林富美子氏50歳（岡崎市柱町羽根田十六―一七）＝あいさつ運動を率先垂範し、社会を明るくする運動の推進

〔団体〕

▽現職教育委員会視聴覚部＝長年にわたる視聴覚教育の推進（代表太田憲吾部長）▽五万石保存会＝岡崎市を代表する五万石の唄と踊りの保存（代表鈴木仙松会長）

表彰式後、東大名誉教授・国立生理学研究所長内薗耕二氏の記念講演があった。

■第16回学校放送教育賞受賞者紹介（第30回放送教育全国大会＝11月9日岐阜市）▽日本放送教育協会会長賞＝美川中・加藤忠彦▽奨励賞＝連尺小・鈴木松三▽同竜海中・英語部（代表石原耕平）

■おかざきっ子展、岡崎のハーモニー

国際児童年を記念した第16回おかざきっ子展は、菅生川河川敷で、10月27・28日、また第7回岡崎のハーモニーは11月23日市民会館において、ともに盛大に行なわれた。

昭和54年度秋季小中学校各種競技記録

第12回岡崎市中学校新人総合体育大会　成績

10月21・28日

種目	姓	1位	2位	3位
陸上競技	男	矢作	福岡	葵・
	女	矢作	六ツ美	岩津・
バレーボール	男	矢作	葵	甲山・岩津
	女	葵	福岡	岩津・城北
軟式庭球	男	矢作	河合	南・葵
	女	東海	六ッ美	附属・美川
卓球	男	南	岩津	東海・河合
	女	東海	南	六ツ美・竜海
体操	男	竜海	葵	甲山・
	女	南	矢作	甲山
剣道	男	矢作	福岡	城北・美川
	女	福岡	甲山	葵・附属
ハンドボール	男	城北	美川	葵・六ツ美
	女	六ツ美	美川	岩津・葵
柔道	男	美川	竜海	・
軟式野球	男	福岡	附属	南・六ツ美
ソフトボール	女	岩津	甲山	葵・矢作
バスケットボール	男	葵	城北	甲山・美川
	女	甲山	葵	城北・東海

第18回　小学校陸上競技大会

10月28日　愛知県岡崎総合運動場

	1位		2位		3位	
男子総合	矢作東	15	緑丘	15	竜美丘	13
女子総合	矢作南	20	緑丘	17	梅園	15

陸上競技個人記録

中学校

種目	男子			種目	女子		
100M	中野　晋作	美川	11"9	100M	牧野美佐子	葵	大会新 12"9
400M	栗野　正己	矢作	57"7	200M	野本亜香根	六ツ美	28"5
800M	畔柳　正己	葵	2'14"0	800M	鈴木　和子	甲山	2'37"2
3000M	神尾　浩孝	矢作	大会新 9'51"4				
100MH	大沼　一毅	矢作	大会新 14"4	80MH	石川小重子	岩津	大会新 12"7
800MR	福岡（稲垣・岩柿・市川・磯谷）		1'41"3	400MH	岩津（石川・山下・若宮・伊藤）		大会新 54"2
走幅跳	上田　節男	南	大会新 6m00	走幅跳	阿部　祐子	甲山	4m69
走高跳	今井　友規	東海	1m75	走高跳	市川　信子	岩津	1m40
砲丸投	梅田　厚史	東海	14m11	砲丸投	鳥居　晶子	矢作	大会新 10m93

小学校

種目	男子			女子		
	氏名	校名	記録	氏名	校名	記録
100M	野場　和也	矢作東	13"6	増田　純子	緑丘	大会新 13"5
1000M	浅井　昌彦	六名	大会新 3'90"5			
60MH	加藤　勝紀	竜美丘	9"5	大橋南都子	梅園	10"0
400MR	竜美丘		大会新 55"2	緑丘		大会新 56"6
低400MR	連尺		大会新 59"4	梅園		62"2
走幅跳	小酒井　治	緑丘	4m66	小野田恭子	矢作南	4m25
走高跳	沼野　充志	岩津	1m34	樹神　斉美	山中	1m29
ボール投	加藤　清隆	六ツ美南	66m10	日高　弘美	羽根	47m40

謎のいしぶみ

所在地—岡崎市大柳町

常磐東学区、大柳の柳地区を流れる農業用水から百メートルほど登った山服に、文字の刻まれた大石がある。

数トンはあろうかと思われるほどの巨石で、ほぼ半ばから横に割れており、上半分が二十～三十センチ前へ出て、帽子のひさしの様になっている。そのひさしの下、人間でいえば顔に当たる所に、かたかなで文章らしきものと、漢字の名前とが刻み込まれている。

どのような人が何のために刻んだものであろうか。この石の存在を知る人は、地元にもほとんどいないようである。

常磐東小学校教頭の城殿先生が、風化してほとんど判読できない文字に、ていねいに墨を入れられたり、膨大な資料を検討されたりして、碑文の解明に努力されている。

城殿先生の調査によれば、「昔、何かの重い病気になった人が、その全快を仏に祈った。そのうちに仏の慈悲が自分の身にめぐってきて、さしもの大病も完全になおった。仏様ありがとうございました」という内容らしい。

しかし完全な判読は困難で「謎のいしぶみ」ということになろうか。

●カット　矢作北小　高寺英世

オアシス

「お前は少ししゃべり過ぎる」と同僚にしかられて、元旦には不言実行を決意。できるかな、と思っているうち一月が過ぎ、よしやれそうだ、とやや自信がついてきたのが四月。おれもえらいもんだ、と胸を張ってえばってみせたのが十一月。「先生、あいかわらずねえ。」ああ、一年は長すぎた！

正月ももうすぐ、職員室のひめくりももうたよりないくらいにうすくなってくると、どうしてこうも気ぜわしくなることか、師走のせいか、先生は昔から忙がしかったのか、十二月しか忙がしくなかったのか、ともあれ、二学期の学校生活はどうだったろう。正月、「しまった。」と悔いを残さないようにしたいもの。

あつかん（熱燗）を酌み交しながら、ふと杜氏（とうじ）の話を思す。

「手を抜かないように、手を抜かないようにやってきたのです。嬉しいですね。酒蔵の徽は、たしかに人間の愛情をくみ取ってくれますよ。……」

よし、おれも来年はがんばろう。「嬉しいですね。」と言えるように。

スキーシーズンがやってきた。すでに積雪の便りがしきりである。

スキーは素直なスポーツだ。格好よくすべろうと基本を忘れて他人の物まねをすれば途端に雪面に投げ出される。ストックの使い方一つにも基本がある。姿、形だけでなく基本からの積みあげがすべての原点だとスキーは教えてくれる。

この本を

○命がけで生きる	青田　強	
エール出版社	¥	880
○原点からの教育	筒井栄太郎	
一光社	¥	950
○ことばと心	外山滋比古	
ダイヤモンド社	¥	980
○母　原　病	久徳　重盛	
教育研究社	¥	880
○山小屋造った…ネコも来た！	西丸　震或	
文芸春秋社	¥	980
○個性の時代	加瀬　英明	
講談社	¥	980
○ことばのくずかご	見坊　豪紀	
筑摩書房	¥	1,200
○学問のすすめ	梅原　猛	
佼成出版社	¥	980
○いま若いお母さんたちに言いたいこと	田中　澄江	
新潮社	¥	680
○もんく・もんく・もんく	今川　憲次	
中日新聞	¥	2,000